

## 平成29年度 英語が好きになる学校づくり 取組報告書

事務所名	盛岡	学校名	矢巾町立矢巾中学校	TEL	019-697-3164
------	----	-----	-----------	-----	--------------

### 生徒の英語に対する興味・関心が高まる環境設定の工夫

#### 【ねらい】

英語科を核とした「生徒が英語を好きになる環境作り」を学校組織全体で進める。

#### 【具体的な取組】

##### 1. 英語科教室の設置

生徒が課題を遂行する手がかりとなる既習事項(単語・連語・ダイアログ等)や、英語に興味関心を抱くような事項を常に掲示しておくように、英語科教室を設置することを提案し、全職員の下承を得た。英語科教室は、2学年の空き教室を充てた。この英語科教室を中核として、英語に囲まれた環境作りを校内に広めた。また、生徒自らが英語科教室に足を運ぶことによって、能動的に英語を学びに行くという姿勢を養うことも目的の一つとした。



##### 2. 全校職員での取組

###### (1) 学校全体で取り組めるアイデアの募集

学校として組織的に「英語が好きになる生徒」の育成を図るためには、全職員の関わりが必要と考えた。多忙な職員が負担感・嫌悪感を感じないように、無理のない範囲で、少しの工夫で取り組めることや、すでにやっていることを再評価する形で進められることを検討した。よいアイデアを集めるため、また、全職員に当事者意識を持ってもらうために、アンケートを実施した。このアンケートで寄せられたアイデアの中から、以下に記す「委員会活動を活用した校内放送」「校内掲示の具体案」「学級通信や学級文庫の活用」などの取組は生まれた。(アンケートの集約結果を資料として巻末に掲載した。)

1. あなたができそうなことは何ですか。該当箇所のすべてに○をつけて下さい(複数回答)。

- ① 教室掲示(または学年フロア掲示)に英語を取り入れる
- ② 英語週間を作り、英語科が準備した「ちょこっと英語で発問・指示集」を活用してみる
- ③ 短活のコーナーで生徒の係を活用して「1日1文 とっさの英会話」をやってみる
- ④ ①～③どれもやれない

2. 1に挙げられたアイデア以外で、あなたのできそうなネタを書いて下さい。

通信に「英語のことわざ」などと載せる。  
 数学で「先生問題」があるので、そのとき「T」と書いた後に「何の略?」「つりは?」と尋ねることがあります。

3. 自分の担当ではない(または自分はやれない)が、こんな取組も考えられる…という案を書いて下さい。(ここは自由に、無責任にどうぞお書き下さい)

- ・放送で、日付や天気も英語で放送してみる。
- ・朝の短学でも英語で言ってみる。(英語の授業スタートのように)
- ・給食のこんどきを英語で紹介してみる。
- ・英語コーナーを使ってみる。エリンゴの写真コーナーのような感じで。
- ・年一回くらい、英語新聞を発行してみる。

## (2) 各職員による実践例

### ①通信に英会話コーナーを設置

学級通信の中に「ちょこっとENGLISH」コーナーを作り、日常会話、あいづち、スラング、ことわざなどを毎号紹介した職員がいた。この職員は社会科担当であるが、休み時間には、積極的にALTと会話をしている。その際に、自らが通信のコーナーで紹介した英語を使って会話を試みたこともあったらしい。「教師の姿を見て、生徒も積極的に英語でコミュニケーションを取ってもらえるようになったら嬉しい」と述べていた。



### ②学級文庫に英語の本を設置

個人で所有している「ディズニーの英語」シリーズの本を学級文庫として教室に置いている職員もいた。この職員は数学科である。「本を教室に置いておくだけで、休み時間や朝読書の時間に、好きな生徒がよく読んでいる」という報告があった。



### ③生活記録ノートの三行日記を英文で書く取組

3学年では、学年生徒会の企画で、2週間にわたり、三行日記を英文で書く取組をおこなった。記述内容のマンネリ化が見られる日記が、新鮮な取組に変化した。

## 3. 校内掲示の活用

### (1) ALT掲示板の設置

今年度、本校のALTにお子さんが誕生した。これを祝い、職員室前にお子さんの写真とお祝いメッセージの掲示板を作成した。この掲示板は、生徒達が興味深く見ていたので、そのまま残して活用することにした。ALTは、我が子の写真をアップデートしながら、英文を横に書き添える作業を続けてくれた。現在も、ALTは楽しみながら掲示板をデコレーションし、生徒も笑顔で眺めている。



(2) 校舎内のあらゆる標示を英訳

校内のすべての教室標示の下に、英訳したものをラミネートして掲示した。その他にも、校内各所にある「説明書き」「案内表示」のほとんどすべてを英訳掲示した。この膨大な作業は、学校生活サポートの職員に担当してもらった。



4. 校内放送の活用

(1) 学習委員会

週1回、毎週木曜日に、学習委員長が放送室から「ワンポイント英会話」を放送した。担当職員の支援を受けながら、簡単に使える日常会話や英語の諺などを解説も交えながら放送した。その放送内容については、後日、「Enjoy English」という通信にして、委員長自らが執筆して全校に配付した。



(2) 給食委員会

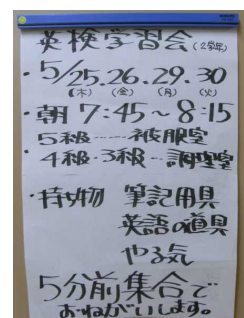
給食委員長の毎日の活動である「毎日の献立と一口メモ」の放送を月に1回、英訳して放送することに挑戦した。すでに、学習委員長が英語放送を始めていたこともあり、給食委員長も刺激を受け、この企画に意欲的に取り組んだ。英語科の教師に質問したり、自ら調べたりしながら、英文を作り、英語放送をおこなった。



5. 英語検定受検の推奨

(1) 英検受検の促進・呼びかけ

英検受検を英語学習に意欲的に取り組むきっかけ作りとして最大限活用したいと考え、英語の授業中や学年朝会などを活用し、英検受検を促す呼びかけを繰り返しおこなった。その際、受検者には、教師が具体的な支援(早朝の特訓学習)をおこなう旨を伝えた。



## (2) 英検受検者向けの朝の特訓学習

2 学年では、英検受検者を対象に、英検に備えて、始業前の特訓学習をおこなった。受検する生徒は意欲的に参加し課題に取り組むとともに、わからない箇所については担当教師に質問をおこなった。



## 6. 授業内の帯学習の工夫

### (1) 英語の歌

2 学年の英語の授業では、授業冒頭に、「今月の歌」として英語の曲をCDで流し、歌詞を見ながらみんなで口ずさむ帯学習を組み入れた。これまでカーペンターズの「sing」、ビートルズの「Let it be」、ベン・E・キングの「Stand by Me」の3曲を歌ってきた。覚えた歌を休み時間などに口ずさむ生徒や熱唱する生徒も見られた。毎時間、同じ曲を1ヶ月繰り返し聞くことによって、耳も慣れ、口ずさめるようになったものと考えられる。当初は、照れたり笑ったりしていた生徒も見られたが、現在は、授業開始のルーティーンとして定着している。

### (2) 既習の英単語フラッシュカード

1 学年の英語の授業では、授業冒頭に、「既習事項の英単語」をフラッシュカードで復習している。本時の授業で使用する単語だけでなく、以前に学習したものも組み入れ、定着を図っている。

### (3) Basic Dialogの暗唱

2 学年では、今年度の1 学期、Basic Dialogの暗唱発表を3回行った。この暗唱発表の目的は、①英語の学習のメインは発表活動であり自己表現することが重要であることを体感させる、②発表者の視線・声の大きさ・話す速度・立ち位置・礼の仕方や聴衆の拍手のタイミングなど発表の型（ルーティーン）を定着させる、③基本の文型をどの生徒にも暗記させて今後の学習活動の拠り所とする、④英語の基本的な発音を指導する機会とする、といった4つをねらいとした。

### (4) 英作文の取組

コミュニケーション型の英語の授業を促進する上で、話す活動を取り入れていくことは、今後、益々重要となる。一方、確かな英語の学力を身につける上では、書く活動も重視すべきである。難易度が高い英作文課題については、生徒の能力に応じて、多様なつまずきが見られる。2 学年の英語科では、授業で英作文課題に取り組み、その課題プリントを提出させ、授業後に、「採点コードを用いた添削」を定期的に行っている。「採点コード」とは、右図のように、主語のミスであれば「S」、つづりのミスであれば「SP」、語順のミスであれば「W0」といったものである。生徒は、返却されたプリントの誤答コードをヒントに修正をおこない、正答にたどり着くことになる。この取組によって、英作文の力を高めることに努めている。

英作文 採点コード一覧

S	主語のミス
V	動詞のミス
O	目的語のミス 目的語—動詞の後に来ることば「～を」
C	補語のミス 補語—be動詞の後に来ることば
T	時間を表す語のミス at eight, on May fifth, last Sunday, this Saturday...
PL	場所を表す語のミス at home, at school, in Tokyo, ...
SP	つづりのミス
W	英文の書き方のミス 大文字、小文字、ピリオドなど
Pre	前置詞のミス 前置詞 = in on to under with など
W0	語順のミス
Pa	冠詞のミス 冠詞 = a, an, the
F	文章の流れのミス
CJ	接続詞のミス 接続詞 = and, so, but, if, when, that
Adv	副詞のミス 副詞 = 動詞や形容詞を修飾することば
Adj	形容詞のミス 形容詞 = 名詞を修飾することば
Pro	代名詞のミス 代名詞 = 名詞の代わりに使う言葉 he she they...

## 【成果】

### 1. 英検受検者の増加

昨年と一昨年の英検受検者数の合計をみると、第1回から第2回にかけて、それぞれ6名増加したが、今年度は17名増加した。3級・2級の受検者数は、過去3年間のすべてで、1回目より2回目の方が増加している。これは、受検者のほとんどが3年生であることから、高校受験前に合格しておきたいという思いも影響していると考えられる。

一方、4級と5級の受検者数をみると、過去2年はどちらも、第2回の受検者数は第1回よりも減少している。しかし、今年度の第2回については、4級も5級も受検者数が増加した。例年、前年度の学習内容を範囲とした検定を第1回に受検する生徒が多くなる傾向がある。つまり、2年生は5級、3年生は4級を1回目に受検する生徒が多い。このように、受検意欲のある生徒が、1回目にほとんど受検してしまうため、2回目以降の受検者数が減る傾向にあったと考えられる。このような傾向に反して、今年度の4・5級の受検者が増えた要因としては、①生徒に受検を勧める働きかけを強化したこと、②受検者への学習支援を強化したこと、③1回目の受検者が全員合格したこと、の3つが考えられる。このようなことから、英検の受検をきっかけに、英語学習に意欲的に取り組む生徒を増やすことができたのではないだろうか。

表 過去3年の英検受検者数

	合計	増・減	3級	4級	5級
H27 ①	37名	3	13	10	11
②	43名	6	24	8	5
③	51名	3	9	16	23
H28 ①	44名	1	13	19	11
②	50名	5	28	9	8
③	24名	0	7	13	4
H29 ①	43名	2	10	14	17
②	60名	6	19	17	18
③	?	?	?	?	?

### 2. 諸調査の結果から読み取れるデータ

毎年、2学年で実施する県中学校学習定着度状況調査の質問紙調査には、「英語の勉強は好きですか」という項目がある。昨年度の本校の調査は、「好き…35%」「どちらかといえば好き…25%」という結果で、肯定的な回答があわせて60%だった。岩手県全体でも、「好き…28%」「どちらかといえば好き…32%」という具合に、肯定的な回答が60%だった。これに対し、今年度の同項目の本校の数値が上昇していれば、本校において、英語の好きな生徒が増加傾向にあることを示せるのだが、結果は、「好き…26%」「どちらかといえば好き…30%」と、肯定的な回答が56%であった。このことから、本事業の取組による効果は、まだ見られないといえる。今後も、短期的な取組で早急な成果を求めるのではなく、無理のない息の長い取組を職員も生徒も楽しみながら持続していくことが重要と考える。

資料

## 『英語を好きになる学校づくり』職員アンケート集約

### 1. あなたができそうなことは何ですか。該当箇所のすべてに○をつけて下さい(複数回答)。

- ① 教室掲示(または学年フロア掲示)に英語を取り入れる 8票
- ② 英語週間を作り、英語科が準備した「ちょこっと英語で発問・指示集」を活用してみる 0票
- ③ 短活のコーナーで生徒の係を活用して「1日1文 とっさの英会話」をやってみる 4票
- ④ ①～③どれもやれない 0票

### 2. 1に挙げられたアイデア以外で、あなたのできそうなネタを書いて下さい。

- ◆すでにディズニーの英語の本を置いている。生徒は結構読んでいます。英語の絵本いいですよ。
- ◆英語を用いた曲の合唱をする。
- ◆昼の放送でオールディーズのナンバーをかける(ビートルズ等)。
- ◆一日英語デーを作る。